

第2回国立市基本構想検討委員会 議事要旨

1. 日 時 平成27年6月12日(金) 19:00~21:00
2. 場 所 国立市役所第1・第2会議室
3. 出席者 永見副市長
(委員)
細野委員長、中原副委員長、小山田委員、観音委員、佐藤委員、十松委員、牧瀬委員、間淵委員、近藤委員、佐伯委員、中島委員、土屋委員、増田委員、吉岡委員 (欠席) 渡部委員
(事務局)
雨宮政策経営部長、黒澤政策経営課長、脇領政策経営係長、赤尾政策経営係主任、青木政策経営係主任
(株)富士通総研 若生
4. 傍聴者 2名
5. 議 事
 1. 基本理念について
 2. 市民像について
 3. 都市像について
 4. その他
6. 配布資料
 - ・ 次第
 - ・ 第1回国立市基本構想検討委員会 議事要旨
 - ・ 国立市総合基本計画(第5期基本構想)の構成について(資料No.2-1)
 - ・ 国立市基本構想 基本理念等の変遷(資料No.2-2)
 - ・ まちづくりの理念、市民像・都市像の検討の視点(資料No.2-3)
 - ・ 国立市基本構想審議委員会 経過と今後のスケジュール(資料No.2-4)
7. 内 容
 - (1) 基本理念について
 - 資料2-1について、基本構想の期間はどうか。(委員)
 - 計画期間については、別途ご議論頂く。(事務局)
 - 基本理念は、継承すべきだと考えている。人権は尊重されるべきであり、人間を大切にすることと互いを認め合うことがつながっている理念かと思う。「人

- 権」というと距離感を感じてしまう部分もあるが、市の「しょうがいしゃがあたりまえにくらせるまち宣言」や「平和都市宣言」にもつながる部分であり、基本理念の説明部分などに「人権」という言葉が入るとよいと思う。(委員)
- 個人が大切にされて互いに理解し、尊重しともに支え合うことが重要である。(委員)
 - 継承することに異論はない。ただ漠然としているため、具体的な要素も考えたほうが良いのではないか。市民も行政も目指す方向が分かるものが良い。ひとりひとりの命・尊厳・生活を大切にすることが重要である。(委員)
 - 差別やしょうがいをなくすという施策に入れやすいものを整理する必要がある。(委員)
 - 現在は世代間の断絶があるように思う。そういった中、お互いを尊重する・人間を大切にすることが重要である。(委員)
 - 基本理念として良い言葉だと思う。しょうがいしゃを健常者が支える、高齢者を若者が大切にすること、というような要素がある。(委員)
 - この一言では、国立市としての特徴や他市との違いは見えない。40年同じ言葉である点は、社会経済情勢の変化を無視しているように感じる。絶対善であり否定できないというのが続いているのではと思う。市民のそれぞれの生活は、画一的なモデルではなく、多様化している。多様なことを認め合うという意味での人間を大切にすることが求められる。(委員)
 - まちづくりの理念は絶対善であって否定できない。ただ市民の中で知っている人がどれだけいるのか。ずっと続けることが一本通ったものになるのではないか。一方で社会の変化につれて人間を大切にする方法も変わってきているのではないか。(委員)
 - にぎわいや交流を掲げる自治体はよくあるが、「人間を大切にすること」はフレッシュに感じる。(委員長)
 - 理念は抽象的なものである。くにたちのキーワードは教育都市で、市外からの学生などが来て滞在することから、市民以外の人でも滞在できるまちを目指せるのではないか。自治や自立が成熟している。市民が生活を考えて市をよくしていこうとしている、「プロ市民」がいるまちである。(委員)
 - これを変えると行政の活動をすべて変えなくてはならないし、変える必要性がないものは、このままがよい(委員)
 - 一人を大切にすることで誰かが悲しむようでは人間を大切にすることにならない。ただ「プロ市民」は良い印象を持たれない可能性がある言葉ではないか、入れるのは厳しい。(委員)
 - 高邁であり、立派だと思う。掲げる灯火である。具体的要素として、人間だけでなく動物愛護はどうかという視点や、しょうがいしゃ、同性愛というような

視点はあるかと思うが、次の議論だろう。(委員)

- 継続が良い。ただ「(1)まちづくりの理念」とあるがまちづくりは建物やインフラを指すこともあり、人間だけで良いのかは分からない。仲間を大切にすることでも良いかなとも思う。(委員)
- 基本構想は、国立市の憲法だと思う。第一に命が重要である。これはこのままで良いのではないか。(副委員長)
- 市民を定住人口としてとらえるのか、交流人口も含めてとらえるのが重要である。マイノリティの人たちへのアシストなども重要になる。また、この理念はもっとPRしてもよいのではないか。理念は継承するが、時代の移り変わりの中でいろいろな課題があり、どういう方向性でまちづくりをしていくかを議論したい。(委員長)
- 今後10~20年、全員が幸せという状態は果たして可能なのか。(委員)
- 対岸の歓声が聞こえて、こちらも喜ぶということはあると思う。博愛は人間性の基本だと思う。課題の解決を行政にだけまかせるのではなく、隣近所で助け合うのもまちづくりである。(委員長)
- 多様性は言葉で言うと簡単だが実行は難しい。人々が多様化するほど行政は一体何をするのかという話になる。多様性を認めて、人間を大切にするのは行政と市民の役割分担が複雑になる。時代背景に合わせた形で説明や注釈を付け加える必要がある。(委員)
- 都市計画はトップダウンだが、まちづくりは市民も入って行う点異なる。(委員長)
- あたりまえのように隣近所の助け合いがある地域コミュニティで育った。人間を大切にすることが意識されれば、安心・安全な農業の実現にもつながる。全員に100%支持されることは難しいが培ってゆくことが重要である。「あたりまえ」にやっていく、なっていくことが大切なように思う。(委員)
- バリアフリーや防災などは大事な要素である。(委員長)
- 人間を大切にしないのは「粗末」である。粗末にすると、信頼関係がなくなり、ギスギスしてしまう。当たり前だが他者に対して思いやりを持つことが重要であり、要素であると思う。(委員)
- ソーシャルインクルージョン、社会の中の寛容性、包容力を高めていくことが重要である。(委員)

(2) 市民像について

- 多摩地域の中での国立をどう位置づけるかということを踏まえながら、市民像を考える必要がある。わかりやすさも重視する必要がある。他市の憧れとなる市民像に整理することが必要である。(委員長)

- 社会経済情勢の変化は加えた方が良くと思う。国立に住むのは国立が好きだからなので、市民にとってのふるさとという言葉が重要である。(委員)
- 住む人だけでなく働く人や訪れる人がいる。市民・市民と言うと、市民エゴになるように思う。市民とは何かを改めて考えながら議論を進めていく必要がある。(委員)
- 説得力があり無難なイメージなので変える意見は持ちづらい。自分を大切にする、周りを大切にする、実感できるかどうかという点では他者意識を持つことが重要だと思う。待っているだけでなく率先して行動できる市民というのが良い。(委員)
- 社会の包容力とは良い言葉だと思う。ただ「いていいんだよ」という包容力のイメージと、市民像とのギャップが目立つ。もっとシンプルに「ひとを思い、平和を求め、まちをつくる」くらいで良いのではないか。他市に住んでいたら今の自分ではないと思うほど国立のまちに育ててもらった実感がある。刺激的なまちで新しいものを感じて学んだ部分もある。(委員)
- 市民の定義はしっかりした方が良い。交流人口を含めるかどうかは議論がある。また法人も市民なのでその観点も重要である。現在のものを踏襲しつつシンプルに整理した方が良い。(委員)
- 悪い言い方をすれば国立市民は「面倒」である。ご自身の意思がはっきりしていて、何でも鵜呑みにはせず問題意識を持っている人が多い。いろんな人がいて、良いまちをつくってゆくことが重要である。また、自然と共存しているまちだと思う。エコやリサイクルという言葉があるが、自然破壊しないことに参画することが重要である。(委員)
- 新しいライフスタイルを提案できる市民である。(委員長)
- 外に住んでいる人から国立に住みたいといわれるまちを目指したい。現在は姉妹都市はないが、姉妹都市になりたいと言われるまちになってほしい。文化的なところでPRできる可能性がある。(委員)
- 自分でできることは自分で。できることを広げていくことが重要。狭い市だけど心の広いまちにしたい。外から入ってきて、外に出て行っても活躍できるような市民を増やすことが重要である。(委員)
- 自助・共助・公助のバランスを整理することが重要。(委員長)
- 地方自治において市民が行政に判断を求められる動きが増えてきた。主体的に市政にかかわる姿勢が重要であるが、文言に書かないとなかなか参加しないのではないか。南北格差を解消し、それぞれの魅力を取り上げるようにすべき。南部にもいろいろな人たちが住んでおり、南部ひとづくりでは問題があるのではないか。(委員)
- 市民像と都市像は表裏一体である。「人間を大切にする」という理念のもとに「文

教都市くにたち」をつくるひとは、こういう人たちだ、というような納得感が
必要だと思う。文化の力でより良いコミュニティが作られ、行動する市民がい
る。現在欠けている学び・挑戦・成長・夢などの要素やそれを応援することが、
理念で話のあった「支えあい」を受けて、文教都市の要素との橋渡しにもなり、
重要である。(委員)

- 自然を守ることや主体的に協働のまちづくりを進めていく要素を市民像に入れ
たい。(委員)
- 市民ワークショップでは転入者を増やすべきか否かという論点があった。まち
を愛しているからこそその言葉であると思うが、まちは変化していかなければなら
ない。変化を恐れない、挑戦などの文言を加えるべきである。(委員)
- 自助をしっかりやれば共助が来るし、共助をしっかりやれば公助がやって来る。
これは市民像でも同様。行政にお願いする、脅かしてやらせるのではなく、
自分たちでやろう、いっしょにやろうという姿勢が重要である。(副委員長)

(3) 都市像について

- 他市にも文教都市があるので、国立にしか出せない文教都市の魅力要素がある
と良い。(委員)
- 秋田県が独自の勉強法で医学生を育成し医師不足を解消しようとしていると聞
いた。国立なりの文教都市で目指せるものがあると良い。(委員)
- 国立はもともと「くにたち大学町」ということで開発され、売り出されたとい
う経緯がある。(副市長)
- 国立市のほかに文教地区に指定されるようお願いした市はあるのか。(副委員長)
- 事務局で調べてほしい。(委員長)
- 学校があるというだけでなく、創意工夫ができる、創造的な取組みが起きる環
境も文教都市として捉えたほうが良い。(委員)
- 以前に参加した観光懇談会では、文教都市というと北部のイメージが強いとい
う意見が南部の方から出た。谷保や矢川はいわゆる「国立」というイメージは
少ない。都市と田園が混じっているまちは少なく魅力になり得るのではないか。
これらを都市像に盛り込めると良い。(委員)
- 南部に住んでいる人間として、さくら通りを境に景色と人の雰囲気が変わるが、
格差という意識はない。文教都市くにたちに農業で何ができるか。既に食育や
歴史教育、職場体験受け入れなどをしており、そのような部分で関われば良
いと思っている。(委員)
- 継承すべきだと思う。生産緑地地区と言っても良いくらい生産緑地が多い。田
舎に住んでもできないような体験ができるのが国立である。緑という部分を大
切にしていきたい。(委員)

- 国立はやはり一橋大学のイメージが強い。最近はくにたち野菜も有名になってきた。谷保や矢川は市民が自分たちのまちを楽しそうに語り、ふるさとに誇りを持っていると感じる。文教都市という言葉は固定化されたイメージがあり、よいと思うが、それだけでなくふるさとの原風景的な部分を都市像に入れてほしい。(委員)
- 「文教都市くにたち」はイメージが良いのでいいと思う。イメージに釣られて国立に来るケースは多い。学力テストの結果も良いので、このままで行けば良いと思う。(委員)
- 「教育」のほうに意識が強くなっている。「文化」の方にも意識を強くアピールできる文言があると良いのではないか。北部は子供会がないし、自治会もほとんど活性化していない。コミュニティが活着ているのは南側だと思う。このようなことも言語化できるとよい。(委員)
- 「文教都市くにたち」は便利で使い勝手の良い言葉である。ただあいまいなので、どこかで定義づけする必要がある。大人も子供も謙虚に学び続けること、その環境を自分で作っていくことも重要。ただ教育と文化は手段ではないので、「教育・文化施策の充実を通したまちの付加価値の向上」などと文言を変えてはどうか。(委員)
- 「文教」にはともすれば押しつけ的な側面があり「教化」のイメージが想起される。良い言葉はすぐに思いつかないが、文化や自然を愛する要素を入れられないか。また、先程からの南側地域の話を知ると、地域の特性、みどり都市が共存する点も国立の魅力であり、発信していくべきであろう。(委員)
- 継承に異議はない。現代的定義とは「学校があって住みやすいまち」だと思う。学校が多いということに留まらない現代的意義というと、チャレンジ的な要素を加えるべき。南部地域でも様々な取組みが展開されている。(委員)
- 「人間を大切にす」は継続し、市民像の3つは整理し直す。都市像の文教都市くにたちを継続するが、時代の変容を考えた文言で整理する(委員長)

(4) その他

- 次回は7月17日(金)19時から行う。(事務局)
- 第4回目以降、第6回目までの審議会と起草委員会の予定日について整理を行った。(事務局)
- 行政計画のリストを提示するので必要なものについては教えてほしい。(事務局)
- 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の関連で10月までに総合戦略を作ると、上乗せで交付金があると聞いたが、そこまでに何かを作ることが必要か(委員)
- 国立市としては、創生総合戦略は総合基本計画の中であつくりとしており、10

月には間に合わないことから、上乘せ交付をもらうことは考えていない（事務局）

- 教育の話が多く出たが「18歳の未来の国立像」の作文などで中高生の意見を整理できないか。（委員）
- 事務局で検討する。（事務局）
- より少ない人数で高齢者を支える騎馬戦型社会が来たときの市民のあり方と、地方分権・地方主権となり、国に頼れず失敗もありうる中で、国立を大事にし、自ら支えてゆく市民像とは何かを考えたい。（副市長）

以上